

農大と 図書館・博物館・動植物園を結ぶネットワーク

学術情報課程通信

農大

図書館にある手紙

東京農業大学図書館長

原 珠 里

昨年刊行された本から二冊に触れたい

と思います。一つは、大江健三郎『親密な手紙』(岩波新書)です。三月に亡くなった作家が雑誌『図書』に連載したものをまとめたエッセイ集で、書物を通じて、また書物をめぐっての先達や友人との交流が描かれています。大岡昇平、サイード、小澤征爾、野上弥生子などのエピソードは大江健三郎という作家の生きる姿勢を示していて、尽きない興味を喚起してくれます。そして、一番のメッセージは「私は入り込んでしまう窮境を自分に乗り越えさせてくれる『親密な手紙』を、確かに書物にこそ見出して来たのだった」という文にあるでしょう。書物がこの作家の豊かで深い精神世界を育んできたことを垣間見ることが出来ます。

もう一冊は、村上春樹「街とその不確かな壁」(新潮社)です。この小説では図書館が主人公の「職場」として登場するので注目した方も多かったのではないでしょう。壁に囲まれた街の図書館には、一冊の本もなく書庫には「古い夢」が並べられています。一方、現実の世界で仕事を辞めた彼は小さな町の図書館の館長となり、前任の館長や毎日図書館に通って来て本を読んでいる少年と交流していきます。この小説に出てくる二つの図書館は、いずれも夢や書物を通じて過去あるいは影の世界の知を読む場所として描かれて

いるように私には思えます。

さて、図書館とは「図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設(図書館法)」とされています。なかでも大学図書館には、専門分野の図書や資料を収集することにより、当該大学の学生や教職員の学習や研究のサポートを行うことが求められています。

本学の場合も、図書館のスタッフはもとより、これまでに籍をおいた多くの卒業生や教職員たちが、必要だと思われる図書や雑誌を選書しリクエストし、できる限り収蔵しようと努力を重ねて育ててきた結果が、現在の図書館の姿となっているということを改めて大切に考えたいと思います。情報の電子化が進む現代社会においても、図書館のもつノスタルジックなイメージは過去から繋がる知の世界として意味を持つのであり、今後も生き続けていくのではないのでしょうか。農学を中心とした知の巨人たちからの「親密な手紙」を受け取ることで、密な場であり、先輩方の思いを「読む」ということを通じて、より広い世界と繋がる場でもある図書館に、場所としての魅力を感じ、さらに育てていくてくれる学生が増えてくれればと願っています。

令和5年度 学芸員・司書関連新規就職先一覧

令和6年2月現在

学 科		就 職 先
現 役	大学院農学研究科農学専攻(後期)	相模原市立博物館
	大学院生物産業学研究科海洋水産学専攻(前期)	標茶町博物館 ニタイ・ト
	動物科学科	市原ぞうの国
	動物科学科	富士サファリパーク
	生物資源開発学科	一般財団法人 公園協会
	生物資源開発学科	株式会社日光自然博物館
	生物資源開発学科	イカリ消毒株式会社
	デザイン農学科	茨城県常総市役所(学芸員)
	造園科学科	文化財保存計画協会
	海洋水産学科	鴨川シーワールド(株式会社グランピスタ ホテル&リゾート)
既 卒	海洋水産学科	沖縄美ら海水族館(沖縄美ら海財団)
	農学科(平成31年卒)	株式会社テツ・コーポレーション(ジブリパーク)
	農学科(平成31年卒)	北野緑生園
	動物科学科(令和5年卒)	井の頭自然文化園
	バイオセラピー学科(令和3年卒)	大町山岳博物館
アクアバイオ学科(令和3年卒)		AOAO Sapporo(小樽水族館契約社員)

学 科		就 職 先
司 書	現 役	生物資源開発学科
	現 役	生物資源開発学科
	現 役	生産環境工学科
	現 役	生産環境工学科
既 卒	既 卒	バイオサイエンス学科(平成28年卒)
	既 卒	世田谷区立中央図書館

検索技術者検定3級合格者 3名
(食料環境経済学科 1名、造園科学科 1名、地域創成科学科 1名)

関連組織に新しく就職された方は、是非、下記までご一報ください。

農事遺産 ⑫

農大古農具コレクション 「苗取台」

昭和50年頃までの田植えは、水田と畑地の特徴を兼ね備えた「折衷苗代」で育てた苗を、水田に移植する手作業だった。田植えの前の作業では、苗代から苗を両手で根こそぎにして、それを稲わらで一握りほどの束に準備する必要がある。腰を屈み苗取台に腰掛け、苗代を前進する作業は農家の大変な取り組みだった。

写真はその苗取台である。これに跨いで腰掛け、水田をスムーズに前進できるよう、興味深い舟形になっている。群馬県では竹で編んだ籠型、筆者の郷里、岩手県奥州市前沢では小さな木箱を使用するなど、地方によって様々である。何れも水田に深く沈みにくい形になっている。

現代では大型ビニールハウスで、長さ61cm、幅30・5cm、高さ3・5cmの薄型育苗箱の中に苗を育て、これを田植えの時に板状のもので掘り上げ、田植え機にセットして植え付ける。

(Y)



資料名: 苗取台
栃木県塩谷郡根町
1975年収集
高さ26.5cm、幅15.0cm、長さ51.5cm
木製
(撮影 T)

表紙: タツノオトシゴ『自然科学史 ー海洋生物編』シャル・オルビニー編
スチール版画 色彩色 1849年パリ刊行 学術情報課程所蔵

学術情報課程通信 第12号

GAKUJUTSU JOHOKATEI TSUSHIN

東京農業大学
学術情報課程 発行

〒156-8502
東京都世田谷区桜丘1-1-1
電話 03-5477-2533

レイアウト・印刷/共立印刷株式会社
令和6年(2024)年2月28日 発行

<https://www.nodai.ac.jp/academics/info/>

編集後記

世界が大きく揺らいだ1年でした。多くの文化財もまた、武力紛争や災害により崩壊、あるいは損失の危機に瀕しています。青い盾のシンボルのもと、文化財の国際的保護活動を行う非政府組織ブルーシールドは、「文化の赤十字」にも例えられます。憎悪や自然の猛威から文化を救うことが、大いに期待されます。

(R)

令和4年度
資格取得
状況

東京農業大学

資格取得者数

学 部	農学部	応用生物科学部	生命科学部	地域環境科学部	国際食料情報学部	生物産業学部	科目等履修生	合計
学芸員	101	6	21	32	10	18	5	193
司 書	24	7	5	16	9	—	1	62

5年間の農大ライフ ―農・初・訳・四・継―

学術情報課程 教授

村上篤太郎

2019年4月1日に、本学の学術情報課程（以下、本課程）に着任し、2024年3月31日をもって、任期満了になります。時間が経つのは本当に早いもので、5年間の充実した農大ライフを経験させていただいたこと、感謝の一言に尽きます。ここでは、師走恒例の「今年の漢字」にちなんで、この5年間で、年度ごとに筆者からみた漢字で表現して、振り返ってみたいと思います。

2019年度は「農」でした。これは本学に着任でき、農学を中心とした本学の伝統・文化を享受できる環境に勤しむようになったからでした。たとえば、榎本武揚、田中芳男、横井時敬、収穫祭、青山ほとり、大根踊り、「食と農」の博物館、生き物、はちみつ等を、機会あることに、同僚の先生方から教えていただきました。それにしても初年度は、常勤として、初めて教える科目も増え、これまでの教材の蓄積が無い分、授業準備に追われる悪戦苦闘の連続でした。



2020年度は、「初」でした。世界中を襲った新型コロナウイルス感染症の影響を受け、4月には初めての緊急事態宣言を経験し、多くの大学で、前期の授業が4月下旬から5月のゴールデンウィーク明けから始まるという初めての出来事となりました。しかも、授業は対面ではなく、これ

また初めてのオンデマンド授業となり、教材としてのパワポイントに夜遅くまで音声吹き込みしたりしました。そのため、前年度以上に、授業準備に時間を要することになり、2年連続で自転車操業を経験する羽目になりました。他方で、遠隔授業も初めて経験し、移動しなくても参加できるITの便利さを享受することができました。

2021年度は、「訳やく」でした。前年から、共著で図書館情報学関係の英語の著作を日本語に翻訳・編集することになり、私にとっては初めての翻訳書『イデオロギーと図書館』を樹村房という出版社から7月に上梓することができました。同年度も、依然として新型コロナウイルスは猛威を振るっていましたが、授業は一部オンデマンド授業を取り入れながらも、対面授業が復活し、さらには対面授業をしながらZOOMで遠隔配信も行うハイフレックス授業も初めて経験することができました。この頃から、授業準備も順調になってきました。

2022年度は、「四」でした。同年度は本課程の創設40周年でした。本課程通信の前身にご執筆された椎村先生が、本課程一筋38年間の勤務を終えられ、年度末に定年退職を迎えることが予め判明していました。そのため、本課程としての記録を残さないと、次世代に引き継ぐことができなくなるのではないかと危惧し、『東京農業大学 学術情報課程 1982年～2022年における40年の歩み』（以下、「40年の歩み」と題した記念誌を制作することになりました。ありがたいことに、筆者はその編集責任者を務めさせていただき、同僚の先生方、教務課の職員の方々はじめ、退職された先生方や卒業生の方々のご協力を得て、無事に年度末に完成することができ、本課程履修学生全員に配布することになりました。筆者の本学4年目の

自治体職員の図書館員として

大学に入り、漠然と何か資格を取りたいと思っていた私は、学術情報課程の案内を見て「これだ！」と思い受講を決めました。

元々卒業後の進路は公務員を考えていて、司書資格を取れば公立図

世田谷区立中央図書館

石川 芙蓉 ISHIKAWA Fuyo

1993年 神奈川県生
応用生物科学部バイオサイエンス学科 (H28年卒)

書館で働けるかもとぼんやり思っていました。最近の図書館は委託が多いこと、司書の正規職員の採用も少ないことを知ったのは講座を取ってからの話です。公務員試験を受け、特別区（世田谷区）に受かって迎えた入庁式、なんと世田谷区立中央図書館に配属されていたのです。

現在の業務は主に予約業務、障害者サービス、社会科学フロア（主に1・2・3・8門）の資料の選書・蔵書管理などです。予約業務では区内にない資料を購入や都内からの取り寄せにて手配します。障害者サービスは、図書館や通常の図書の利用に困難がある方のためのサービスです。図書館に来られない方の自宅への配本、視覚障害者等のための音訳図書の作成や取り寄せの手配、音訳ボランティアの方を養成する講座の開催、またサビエ図書館登録の代行もします。社会科学フロアの選書・蔵書管理では、資料の選書・受け入れ・修理・除籍まで行います。資料を受け入れるにはそれだけ除籍が必要です。膨大な資料があるので、除籍検討も膨大な量です。加えて窓口従事や他の業務もあり、忙しくも充実した日々を過ごしております。

図書館で働きたいと考えている方へ、私は偶然直営館が多い世田谷区に受かり、幸運にも図書館に配属されました。部署異動の際に図書館を希望しても確実に叶うとは限りません。私自身も来年には全く違う部署にいるかもしれません。それでも今現在、学びを直接生かせる仕事ができているのは幸運だと思えます。いろんな可能性を探って、図書館に勤務するチャンスをつかんでください。

大温室を魅せる日々

幼いころから図鑑を片手に外出し、植物の同定や友人たちに花の名前を教えることが好きでした。植物を好きな気持ちは変わらず、中学生には「私は東京農業大学に行きたい、植物園で働きたい」と両親に話していました。農学科へ入学してからは花以外に野菜・果樹などを学びましたが、正直、好きなこと以外頭に入らない性格なので、花卉以外の授業はあまり関心が持てませんでした。

大学生のうちに資格取っておいだ方が就職活動に有利だろうと考え学術情報課程の説明を開きに行きました。聞いた途端、これは私のやりたいことだ、幼い頃から思っていたことが活かせるのではないかと思ひ受講しました。学芸員の授業は、博物館としての在り方や機能を考えるとともに標本の作り方や保存管理の仕方なども教えてくれるので、毎回ワクワクしながら授業を受けていました。

大学卒業後、数年間はフューネラル業界の花葬部門で働いていました。そこでも花の知識など多くのことを学ばせていただきましたが花のことをより知っていくうちに植物園に勤めたい気持ちが強くなり、退職を決断。たまたま行った転職フェアで出展していた東京都公園協会にお話を聞きにいったところ、現在籍の部署に空きがあるので受けてみないか

農大ライフと「40年の歩み」とを掛け合わせて、「四」と表現してみました。

2023年度は、「継」でした。本課程の今後の発展を期待して、様々な業務の継続性を意識しました。同年度に新任として着任された棚橋佳子先生、田留健介先生には、様々な機会に、引継ぎをさせてもらっています。また同年度は、初めて図書館運営委員会委員を拝命したことが切っ掛けで、図書館の実務政策を検討する会議にも加わる機会を得、筆者の前職における慶應義塾大学の図書館員としての実務経験を活かし、微力ながらお手伝いすることができました。図書館と本課程との今後の協力関係も期待できるものと思っています。世田谷区立経堂図書館とは、2021年度から協働イベントの企画立案・実施を始めています。2023年度は初めて本学学生を図書館実習生として受け入れていただき、同実習生も参加する協働イベントも実施でき、今後の協働が楽しみとなっています。また、同一法人であります東京情報大学看護学部との共同研究（公共図書館における高齢者の認知機能に働きかける一斉音読イベントのプロジェクト開発）を、本課程として初めて申請し、敗者復活戦の如く、総合研究所プロジェクトとして研究費を付けていただきました。同一法人の環境を活かした今後の両者のさらなる共同研究へと展開するための礎になったものと思っています。さらに、4年ぶりに収穫祭が制約無しで開催できたことにより、11号館での本課程履修卒業生との集いとして、恒例の「おでん」を振る舞うことが復活しました。きつと、次年度以降も継続してもらえものと思っています。

最後に、本誌面に執筆の機会を与えていただきました木村先生をはじめ、本課程主任の入江先生と前任者の上原先生、同僚の先生方、教職課程の先生方、教務課等職員の皆様、これまで私の授業を受講された学生諸君を含め、お世話になりました全ての方々には本誌面をお借りして、御礼申し上げます。ありがとうございました。



公益財団法人 東京都公園協会
東京都神代植物公園

藤井 真由 FUJI Mayu

1997年 愛知県生
農学部農学科 (H31年卒)

とお声がけいただきました。植物の話、学芸員課程で学んだホスピタリティの考えを面接では話し、無事採用していただきました。

現在、神代植物公園にて大温室管理の部署で働いています。植物を来園者へ「魅せる」ことを重視した展示入れ替えや、夏休みなどを利用した教育普及イベントを企画運営しています。常に来園者の視点に立ち、植物を好きになってもらうきっかけになるよう学びを広げていきたいと思っています。